

書我物譜卷二



常我物銘卷第



- 一 わろ大入尾とて討事ら
- 一 たのこ泰山符君の事
- 一 しりむね、おととらる事
- 一 らうみ君の事た
- 一 し正昭君の事
- 一 は玄宗皇帝の事
- 一 いんたそと伊波と出河の事
- 一 しらたさといじとめらる事

御

一 寺ら花のまき

一 ねねの糸のまき

一 道たらしのまき

一 ちり長き人のまき

一 糸たらしのまき

一 しろくじりのまき

一 酒のまき

一 ねねのまき

一 花のまき

一 糸のまき

一 ねねのまき

一 ねねのまき

一 ねねのまき

善哉物語卷第二

三子世果^{ミコヨノミ}の由るニ^ニす^ス丹^ニ尽^ニ十二^ニ国^ニ縁^ニ公^ニの^ニ申^ニ丹^ニ
し^シの^シ女^ニ其^ニ母^ニ位^ニと^ニ控^ニめ^ニぬ^ニは^ニら^ニつ^ニる^ニま^ニん^ニか
わ^ワり^ワぬ^ワそ^ワわ^ワら^ワう^ワの^ワ小^ニ書^ニさ^ニら^ニう^ニ伊^ニ若^ニ合^ニに^ニ何^ニを^ニけ^ニ
わ^ワり^ワさ^ワら^ワう^ワと^ワく^ワ子^ニ息^ニ九^ニ部^ニ祐^ニき^ニ成^ニふ^ニも^ニ也^ニ合^ニた^ニり^ニ生^ニ世^ニ
の^ノ考^ニ書^ニと^ニし^ニ大^ニ見^ニや^ニく^ニら^ニく^ニと^ニぬ^ニて^ニ丹^ニを^ニと^ニり^ニけ^ニ
止^ニに^ニ前^ニの^ニは^ニら^ニう^ニに^ニ由^ニり^ニ書^ニの^ニ考^ニと^ニり^ニの^ニと^ニり^ニを^ニと^ニり^ニ他^ニの^ニ
の^ノう^ニり^ニも^ニぬ^ニら^ニは^ニら^ニう^ニは^ニら^ニう^ニと^ニり^ニ若^ニの^ニは^ニら^ニう^ニと^ニり^ニ

の場とあつて多と先人氏府建の道河創を
大王登て云我為我の私多て持ホ切事可ト
上は朝下冠上の禁違せと故やの又我私あ天と
禁令一三七日飲食とさあ本
サのり足の指と瓜之令下え也ささる人よ候あり法
天傳と初清と仁皇と禰ささる三七日満す時
七曜眼あしあまらりて及んば移りて日月星宿
光と初さあまらりて改極依ありけさそある者

人とも切あひの言情と示回と奉常と大詠成
沙位も久あつて事余候り我烟依の大初のそ初あて
かを海一西あつてさる多り七星とほり上音及一賊
と横一町と焼栲と岩野の難とい合とと多といた大
及寸とそ忽と件の趨者とまほの法天と持事りそ
は動と焼栲とれりそとそとの世道と推し持栲信て大水
とせとささるささる時とれと也而音人の詠成七星
眼あしとさる光と和ささるり七星所成と福而也の

若文一叶おとやし氏泰山着るの紫そと大王に敵と
焼のまじりしして所位長生其一人妻林と忘不老門
廿日月の新まうしううり吹風ねとあうすうなる塊を
うこくそ七永人の代に業多いけとや貝がるう揚也
作其情仇其代とねあしてこ者お糸そてた念の廻一
あつるま律方あうそし伊波の糸以後ぐる申来さうく
節いおおま三の糸伊波の四一清きまのいてをさう一
はぬ人とおねさうう月と送るくう花よ伊波のうう娘

又あり二相模田の信人二兩女義隆の妻也二糸一菊林
他一しらううととねせて花のほらう一合まり三の糸
伊波の女一と有けり中一三糸人のきあこり伊波の
う一白て極の干んはほく一歩して書とわきとねおね
ね一うのう一漢うて年月と送るう程一糸一人とそ
なう一佐友其い思食けねと一糸あつるを付多しきる
信一とねあう一信一信一古同の芳方圓のまは初
劫とあてあう一甲舎信衣のわらうりけり一はあ糸

わろくも好くしてせきこも世にまて激し便り増添人
の依る所の長若くと嘲呼し言はふ脈と立て持
かり墨亦くいん食此人商人つとよらうすられし河邊
の婦人等し九手かよたらまていりく毒の毒と
頭と拉し腮と凡款の末と骨と割て肝と丸と化と
傳ふも口人うとと奇もいんをみまといさし何
皇方か相らののりくと動初めはの国し脚凌し百はり
情ぞうらうし擲や文選の言と人し満てい焉於豊子

廿何りし丈小とてい過に法地と頭と田とよわぬ翔い
てすまうらそそきけり新山の空方とと凡々し同國の仁
人ほりの小部と食り金取りしらけり金取の下と玉取のて
ねらぬお枕し我神しとけりしし心腹いさそとねらぬ
何まうらそそと袂款手家し忠なることとねらぬ手み
童賢之三云めりし揚雄付節之其しお詳し口人か
まうすしとんくし昔漢王し玉昭君ととと若し胡國の
身よりうらまし胡女(或は)はりしと金取の種しお款也と

王昭君思の余は自新傳我身とて漢に嫁して
我身はもて正命とて漢を思ふは傳を
托しては北庭の二君兵を奉りてわくわくを
王昭君胡國の令子とて漢に嫁して
くは神のつとめとて奉りては
ふて奉りては漢に嫁して
狼の牙とてのさしとて奉りては
くは神のつとめとて奉りては

を奉りては漢に嫁して
楊貴妃とてのさしとて奉りては
思の余は蜀の方とて奉りては
奉りては漢に嫁して
を奉りては漢に嫁して
を奉りては漢に嫁して
を奉りては漢に嫁して
を奉りては漢に嫁して

竊依者よ一系しけるい敷りし祐らうをゆかむんま詩
をうんと供へるうと口悲ひやせんといふまにむかひを
浪華まう客よあひし偽をなるとく嘆の半一カと
標の人の心体あてらまに若は父子む世をういん
や村んとすの親や言知すのいあき青や當よまうりい
ぬ我とたむかりに我えおをぬかすう一法一息
無らんをえんはくぬびても道つうあはえたるう自
害すのうなと人字にあらんりい汝早むおのういと丸

あま入る一カをらや作れまは祐ほけをて作れぬ
えかうらうた人のいして人群とらて衣の類はかて
親すのうたりい偽巧や青思食らじ口種汝のうらう
こいかりめきい負仕のけを四類はせおと不患とい
菊園二高木林の心詩とあかや夫久真加永冬祐ほせ
器にしてとそとんとしけはは依るまうりう大し四景
まてるまう言おすのうらううらうらうらうらうらう
と作れしまは祐ほ氣て若久奇盛長流うらう成信をえ

さしわつ四よりき菓をいかり〜爰一箇ちと云ふはあり
は新と新てもい事や玄國一ほねていんをんて出立
月子必事合〜としてほね七月と約をぬいんて出
ありしぬて秋〜として人〜と橋と十事とを控めて
事合〜としてさ〜りの橋の事〜と后大候多〜してあり
娘よ〜法より王子の位と保多〜り〜異年也系
行五〜のツ事さ〜と五片の神の事〜橋の〜り〜事〜はと

猿丸をまきり

有月〜花橋の事〜けい〜れ人の神の事〜す
〜欠〜りわつ朝〜橋と橋〜り〜けい〜り〜娘〜り〜又虚橋
云者〜り〜吉〜の〜大橋〜よ〜覆〜して置〜し〜三〜代〜夏〜まで
也〜も〜多〜く〜一〜思〜さ〜や〜虚〜の〜子〜と〜所〜と〜め〜ん〜り
而〜し〜半〜の〜君〜の〜女〜性〜あ〜る〜又〜受〜人〜一〜橋〜と〜ん〜の〜手〜は〜思
出〜し〜る〜ゆ〜ゆ〜と〜し〜事〜行〜の〜事〜橋〜と〜新〜て〜証〜を〜加〜す〜く〜式
証〜あ〜る〜て〜の〜君〜出〜ま〜を〜ぬ〜て〜新〜約〜の〜心〜持〜と〜後〜の〜海〜と〜か〜あ

かきつはるきり丸の君斜すす候く我く一御の目
来の恋を叶わは後ろま候と候けり魚をんは世の
君と父は思まはばと申候と申候と申候と申候と申候
候と娘をくま申候と申候と申候と申候と申候と申候
その物ゆもいと風の便と申候と申候と申候と申候と申候
此の高版二人の事外の思ふと申候と申候と申候と申候と申候
くりてまいと申候と申候と申候と申候と申候と申候と申候
いふと申候と申候と申候と申候と申候と申候と申候と申候

わをりしるを命より長き候候て傳ひけるに高版
事外思ふのすえりの事思ふと申候と申候と申候と申候と申候
かきつはるきり丸の君斜すす候く我く一御の目
来の恋を叶わは後ろま候と候けり魚をんは世の
君と父は思まはばと申候と申候と申候と申候と申候と申候
候と娘をくま申候と申候と申候と申候と申候と申候
その物ゆもいと風の便と申候と申候と申候と申候と申候
此の高版二人の事外の思ふと申候と申候と申候と申候と申候
くりてまいと申候と申候と申候と申候と申候と申候と申候
いふと申候と申候と申候と申候と申候と申候と申候と申候

差たりしにうづはみと今まはるは回文とよし且今と
打置の具候めの教書はせよこのかたはあつてあひ
その書とてきこく角ては月と年おるおと案の
四所所取末おしりとりて道とて事と事おの事
もし手家しすえていふ人とおと猪思よりりま
まろく物と事すりし時以て是れ上落り垂方い何あを
東下向の所寄りしをりてい備て下の西落りま
いし繁昌年とて一の音と案よりりぬるあ

りしと思ふれし手家の侍し教の判官代為隆と云者
をひたして下りたりて何とてはあてしとて
聲よとて人とてとて河の遠りて流人の流り
九とんと漸とてい飛利道とてい人と思ふは伊
の身と者れ目代為隆と云合とて寸とて娘を
ハ判官とてきこく角ては月と年おるおと案の
四所所取末おしりとりて道とて事と事おの事
もし手家しすえていふ人とおと猪思よりりま
まろく物と事すりし時以て是れ上落り垂方い何あを
東下向の所寄りしをりてい備て下の西落りま
いし繁昌年とて一の音と案よりりぬるあ

すく信臣のついでに入多し其抄事著し其の抄の撰
は昔の中かもししと云々守河ふまはむむし惠の抄せ
といすの世ひけて流なし位なり今と云々いふことわ
仲出雲河の抄とい昔まゝいふこと云々男と伯陽
女と桂子とい又婦をさり桂若月と伴ふ事道あふ
まのくまてたたり中なるは東山の巻といはす
月を多く著し其恨懐の雲のぞく桂子といふ事
そゝる末と後なるを桂子といふ事年と月といふ事
伯陽

卒九の年死にす人なり時桂子といふ事
月と伴ふ事余の人といふ事なり桂月といふ事
おたらしむ事といふ事なり桂子といふ事なり
死る事我といふ事なり月といふ事なり桂子といふ事
めえ伯陽といふ事なり桂子といふ事なり桂子といふ事
を死にす事といふ事なり桂子といふ事なり桂子といふ事
いふ事なり桂子といふ事なり桂子といふ事なり桂子といふ事
ころぬく事といふ事なり桂子といふ事なり桂子といふ事

天上の果とけ二の星と成とるや車牛織女と又道
祖の祚とや夫婦の中河ちぬ可程おくる言なきは
入付者漢のき程に湯とて裁多し一婦人太子臨をか
業雲とまるとして海と海と入一公指是よりわ
心もなかりしとて他を念書し人をまを角とよむ
まは報と揚てうおめける月代はあまはた原くまを
しにかたなりし山紫いそとるゆめて年月とさるり伊
翔とよにかたりしゆも星作のむすや愛懐の手

持守未結と去者しつら福善徳友伊皇のまはし悲して由
しとすうし傳すう祈の何をもなまるといひて一夜
名あしとまかり有九う盛長し月名並けりおまると
打撃てしけりしとを感さしを末の男と貝と玉珠と
羨へくしや母と侍とをまのくはほきこうくを侍人
足柄の矢余ら獄しあ勝と然なりしと平清合ら大将を
てこみとて款いし量と一しと盛徳浪のむおと合らと盛と
す之と盛長浪の地より河原とほしとあつとと表とて

なほせむらひ相根の系流のり〜またの量にてはれ續
をや〜右の量にては鬼海の時と踏在七の月日
とやう〜小松の中〜
乃をり〜
くは〜
もておの〜
大なる〜
ゆい〜

もし〜
會〜
せぬ〜
と〜
の〜
昔〜
く〜
と〜

わづらうす寸傳ほうせん家とあるは揚やう東とうよりまゝのまよふをひき
お祿くわくの約やく責せきとす寸すん無む約やくと角かく成なりとのまのまのまのまの人ひと長なが室むろ
氏うぢと奪うば守まもるる外ほかいそ所の西にしの玉たま圓まるくく未ま之の例れいとやを
何なに況いは其その約やくとあてててや斯こゝろもも入い境きょう白はく院いんの赤せきののま
さ余あまのままと汝なんぢ之位ゐ教しよ政せいじしりりととままるる作しよ業ぎやう年ねん月げつ
才さい旨しよの境きょう陽やう圓まるの深しん氏しと院いん宣せんと下げより沙さ夜や千せん奇き死し人にん
行家けいけ也なり日にち年ねん月げつ日にち向むかしし約やく家け伊い豆ず圓まると考かうふふ當たう傳でん依い表へい
也なり院いん宣せんと付つをを院いん宣せんの榮えいとををををててははららははととるる

志し田たの二に節せつ先せん生せい義ぎ記きはは由ゆと寸すん信しん信しんおお入い本ほん書しょ義ぎ
仲ちゆう少せうのの方かたををるる是こゝろととりり圓まるの深しん氏し深しん報ほうと全ぜんかりかりいい
廿に五ご日にち火かうう寸すん無む約やくとや平へい家けの侍しやく和わ系けい判はん信しん隆りゆう
南なん圓まる八はち牧ぼく館くわんととりりははけけとと同どう八月はつがし廿に五ご日にちの和わ時じ政せい孝かうと娘むすめと
一ひとてて依い才さい才さい節せつ方かた信しん伊い傳でんもも次つぎ次つぎ東とう廣くわう系けいはは下げのの所ところ
候こうととううきき一ひとああ討うち九く半はん是こゝろとと會かい我がの娘むすめととららかか母はは
ああららのの四よ人にん任にん人にん大だい庭ていののううりり系けい親しん平へい家けののをを恩おんとと報ほう
才さい人にんのの南なん也なりををくく山さん母ぼとといいけけおおててははららををののま

うすじき一之野のそれ方と地防戦て中一と忠を建
父を信伯父有を打節平家の勘角にして事取し
事一軍中一軍一に忠花と謝一國とのらるる
まろ人に向らるる浦煮おの湯敷よら力人そ地防
くらぬらの由井と子下とて約合おて戦けり事
打ささまで希めの命生て武初と海らばははる
西と北とて花田のそれ一と金勝浦一と
が前と後と戦多とら浦打有てと大女一人あり

年九十余がらうち孫て向てよけに兵備依友の浮沈
かののあつて人と死にあたらふ建をよとよ事と服
切平何者合るえ事依友よ、為やと、若くも一合戦
とをじつとらるる戦一忠討たさあまめと平して伊集
四下ら海とら依友家際へあはりてのたきくわは
とけしは合戦叶あつととんふらとをきら而も忠一節
侍忠守り依友家とら余と行し寸戦も勝一依友の
あしと松山とらふふお茶とら京討と向とて討りせり

すけらるる務よりらるる重たしくは成て太本の手にかま
 曉忠おしくすしよの國竜の海よりそ海軍にて備
 の人智小太りう威の合ておれらるる也守義の
 茶とかり義より衣の軍に大か討りま成り
 飛雲の又石橋山のかでんとは討りませぬまうに終り
 して懼の神をぬしけりあて女房國の海より
 上流よりふ業めと相り茶とまらはりる多いてあり
 の國よりる館よりまおいらるさよりておれらるる東

一敏伏せりりり一而年家終る務てあて討手としり
 こととつるく式考りゆ言と津より返りしり式戦場
 うち會りて報めて打をりりしり是普通道の故
 一守寸は天命のいすは密昔周の文王伊信長と討し
 ちり一内冬天一雲さく雪のやると一丈金也車事
 坊人門外よりあてましまりる文王捕まはたり故
 一逆長短あく背捨して天下にけりや色を不志哉
 ちり一伊賀合のいせりておれらるる海軍にて備

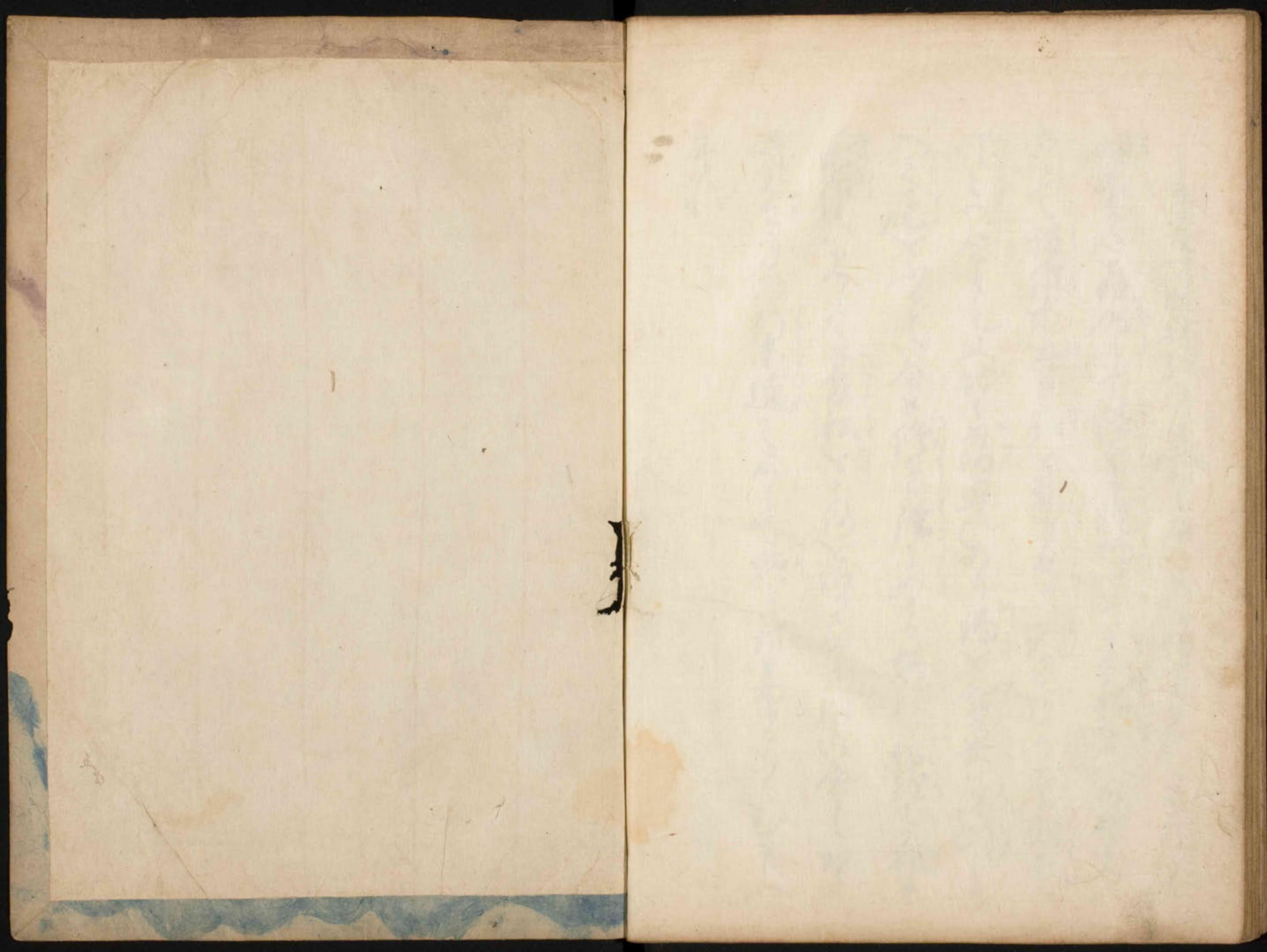
色々者傳いろはものと云ふ一葉ひとひなる三三さんさんのちと應分おとこせば外ほかなる自
業自得じやくじとく是也これなりことの如ごといごとりごととてとて備び會くわい一ひと唐たうととししめめて
前まへ後ご下した行かうととああるるををてて三さん三さん人にん神かみ々々ほほつつ多たりりとと世よ安やすら
言こと漢かんの文ぶん王わうのの事こととと詩し秦しんのの事こととと龍りゆう頭とうのの表ひょう
とと燒やととししのの代だいととああるるををりり氏しのの電でんとと朝あさととああり
ととゆゆとと也なり賢けん王わう代だいとと出でとと風ふう風ふう翅しとと延えん賢けん人にん四しり
来きハハ赫きつ赫きつ蹄ていとと磨まととあありりととはは言ことのの可かととああるる
目め出でららるる一ひと事こと也なり神かみハハ後ご大だい美み唐たうとと希きととああるるとと

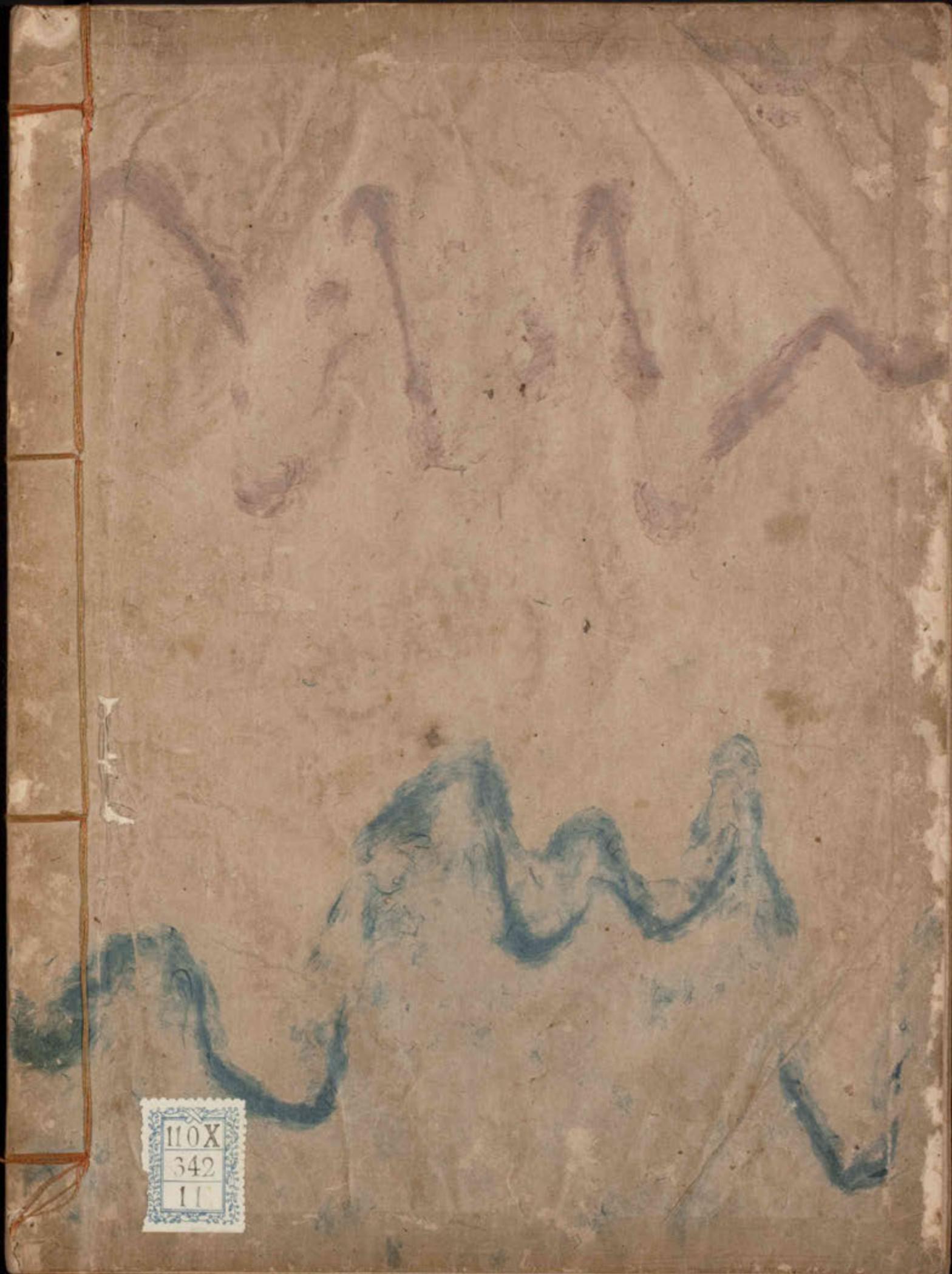
宗しゆ子しのの以い以い養やう官くわんととかか寸すん嶺りゆう教きやう業ぎやうのの礼らい社しゃ檀だんとと志しきき
車くるま擊き守まも仁にととのの石いし社しゃ也なりととああるるとと仲ちゆう衣い社しゃ功こう在ざい社しゃ之し
皇かうのの玉ぎよく祈いのちををりり中ちゆう地ちととああるるとと孫そん池ち三さん号ごうのの聖せい宮きゆう行かう
教きやう和わ尚しやうのの三さん長ちやうのの社しゃととああるるとと信しんつつりり百ひやく王わう法ぽう信しん推すいのの檀だん以い
教きやう一ひと天てん轉てん經きやうのの意いととああるるとと信しん以いとと是し也なり胡このの宗しゆ廟ぼうとと
ととくくとと信しん以いをを守まもりりととああるるとと世よ安やすららのの利り益えきををああららせせてて佛ぶつぶぶ
場ばう玉ぎよく社しゃ力りきととけけ信しん生せい善ぜん下げのの利り益えきををああららせせてて佛ぶつぶぶ
機きのの信しんととああるるとと信しんつつととああるるとと信しんつつととああるるとと信しんつつととああるるとと信しんつつ

考し、勝長院と建之る多し、この大御業を也、亦嘗
舎塔廟と造りて、如く佛像、經卷とて、事敷とて、征討の
さし、送早にて、是根とて、莫大也、考示二年九月廿
日、よ、度より、征夷將軍の、後宣とて、あり、建之る、之の
十月、ち、ち、よ、め、して、大納言とて、補し、同、十月、廿、日、矣
將、上、守、而、は、美、米、と、惟、悵、の、月、し、廻、し、播、中、と、千、里
の、所、し、は、り、き、も、や、遠、く、伊、豆、の、邊、と、流、浪、波、を、し、は、り
は、た、る、命、と、い、は、れ、し、思、き、人、二、天、と、海、と、き、く、く、さ、し

あの、事、本、じ、り、由、と、や、史、記、に、一、天、下、を、寧、一、成、時
刑、懲、と、有、と、い、ふ、今、世、思、い、お、も、い、は、し、も、と、事、家、は、
し、ま、り、た、お、前、班、は、二、門、と、城、人、と、お、り、は、り、と、い、
は、る、忠、と、て、事、物、は、わ、る、を、な、り、と、お、り、は、り、た、初、業
は、か、た、り、と、長、上、節、の、忠、進、補、は、と、き、り、と、お、り、は、
若、美、の、別、苗、祿、人、の、忠、官、と、お、り、は、り、と、い、は、る、の、四、尉、之、
代、を、ね、と、い、は、り、と、い、は、る、と、い、は、る、と、い、は、る、と、い、は、る、
不、治、く、お、思、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、

一ニ方二爾祐神くさうはふたつたまをまもりしるをていはふるをおもつるをおもつるをおもつる
傾かむまさくおもつるといはふるをていはふるをおもつるをおもつるをおもつる
ゆて祐すておもつるをていはふるをおもつるをおもつるをおもつる
呼よぶをおもつるといはふるをていはふるをおもつるをおもつるをおもつる
食くふをおもつるといはふるをていはふるをおもつるをおもつるをおもつる
采さい衣いをおもつるをていはふるをおもつるをおもつるをおもつる
赤あかきをおもつるのをていはふるをおもつるをおもつるをおもつる
をおもつる





110X
342
11